



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

1/10
改訂日: 07.03.2018
印刷日: 07.03.2018

項目 1: 化学物質等及び会社情報

1.1 製品識別名

製品名 トップチョイスフロアブル
製品コード (UVP) 84931314

1.2 推奨用途及び使用上の制限

使用 殺虫剤

1.3 安全データシート作成者の詳細

サプライヤー バイエルクロップサイエンス株式
会社
東京都千代田区丸の内1-6-5
日本

電話番号 03-6266-7419

FAX番号 03-5219-9735

担当部門 生産本部 QHSEグループ

1.4 緊急連絡電話番号

グローバルインシデント対応 +1 (760) 476-3964 (Company 3E for Bayer AG, Crop Science Division)
ホットライン (24時間対応)

項目 2: 危険有害性の要約

2.1 物質または混合物の分類

JIS Z 7253 / GHS分類マニュアルによる分類 (改訂4版)

急性毒性: 区分4

H302 飲み込むと有害。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露): 区分2

H373 長期にわたる, 又は反復ばく露により臓器 (肝臓, 中枢神経系) の障害のおそれ

水生環境有害性 (急性): 区分1

H400 水生生物に非常に強い毒性。

水生環境有害性 (長期間): 区分1

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

2.2 ラベル要素

JIS Z 7253 / GHS分類マニュアル (第4改訂版) による表示

供給/使用のための危険有害性の表示が必要である。



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

2/10
改訂日: 07. 03. 2018
印刷日: 07. 03. 2018



注意喚起語: 警告

危険有害性情報

- H302 飲み込むと有害。
H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器（肝臓、中枢神経系）の障害のおそれ
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

- P264 取り扱い後は手および顔をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P301 + P312 飲み込んだ場合：気分が悪い ときは医師に連絡すること。
P330 口をすすぐこと。
P314 気分が悪いときは、医師の診断 / 手当てを受けること。
P391 漏出物を回収すること。
P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

2.3 他の危険有害性

他の危険有害性は知られていない。

項目 3: 組成及び成分情報

3.2 混合物

化学名又は一般名

懸濁剤 (= フロアブル剤) (SC)
fipronil 95,6 g/l

危険有害成分

名称	化学名	CAS番号 / 官報公示整理番号	濃度 [%]
フィプロニル	5-amino-1-[2,6-dichloro-4-(trifluoromethyl)phenyl]-4-[(trifluoromethyl)sulfinyl]-1H-pyrazole-3-carbonitrile	120068-37-3	9,1
Sulfonated aromatic polymer, sodium salt		68425-94-5	>= 1,0 - < 3,0
2-Methyl-2H-isothiazol-3-one		2682-20-4 (5)-5235	>= 0,006 - < 0,06
1,2-Benzisothiazol-3(2H)		2634-33-5	>= 0,005 - <



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

3/10

改訂日: 07. 03. 2018
印刷日: 07. 03. 2018

)-one		(9)-1845	0, 05
1, 2-Propanediol	1, 2 Propanediol	57-55-6 (2)-234	>= 1, 0

詳細情報

フィプロニル	120068-37-3	M-ファクター: 1.000 (急性), 10.000 (慢性)
1, 2-Benzisothiazol-3(2H)-one	2634-33-5	M-ファクター: 1 (急性)

項目 4: 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

危険域から避難させる。直ちに汚染された衣類を脱がせ、安全に廃棄すること。事故の場合や、気分がすぐれないときは直ちに医師の診察を受ける（可能ならばラベルを見せる）。

皮膚接触

石鹼と水で十分に洗い流すこと。症状が持続する場合は、医師に連絡する。

眼に入った場合

目に入った場合は、コンタクトレンズをはずし、まぶたの内側も含めて、直ちに最低15分間多量の水で洗う。刺激があり継続する場合には医療機関で診察を受ける。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

症状

症状と危険性は、相当量の有効成分量を摂取した後に観察される様子を参照する。、次の症状が起こることがあります:、冷静失調、不安、振戦

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

取り扱い

特に解毒剤なし。呼吸機能を注意深く監視すること。痙攣の場合、標準的治療に従ってベンゾジアゼピン（例えばジアゼパム）を投与すべきである。必要に応じて酸素投与または人工呼吸。気道を確保する。胃洗浄は摂取後2時間以内のみ有効と考えられる。活性炭と硫酸ナトリウムによる処置は常に有効と考えらる。中毒の症状は数時間後に現れる。少なくとも48時間は、医師による観察が必要である。

項目 5: 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

使ってはならない消火剤

大型棒状の水



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

4/10

改訂日: 07. 03. 2018

印刷日: 07. 03. 2018

5.2 特有の危険有害性	火災が発生した場合、次のものが発生する可能性がある：、一酸化炭素 (CO)、塩化水素 (HCl)、窒素酸化物 (NOx)、フッ化水素、硫酸化合物
5.3 消防士へのアドバイス	
消火を行う者の保護	火災や爆発の場合は、煙霧を吸い込まない。火災時には、自給式呼吸器を着用する。
詳細情報	熱による圧力の上昇を避けるために、火気のある場所から製品を取り出し、または容器を水で冷やしてください。可能であれば、砂や土で区画して消火用水を入れること。汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。

項目 6: 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

注意事項	漏出した製品や汚染された表面との接触を避けること。こぼれた物を扱うときは、飲食したり、喫煙しないでください。保護具を使用する。許可されていない人を遠ざけること。
------	--

6.2 環境に対する注意事項	地上水、排水口、地下水に入らないようにすること。製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。
-----------------------	---

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

除去方法	不活性の吸収材（例えば、砂、シリカゲル、酸性結合剤、汎用結合剤、おがくず）で吸収させる。製品を回収し、適切にラベルを貼って密閉した容器に移す。汚染された床や物を徹底的に清掃し、環境規制を遵守すること。
------	--

追加アドバイス	ローカルサイトの手順についても確認してください。
---------	--------------------------

6.4 参照すべき他の項目	安全な取り扱いに関する情報は第7項を参照すること。 個人用保護具に関する情報は第8項を参照すること。 廃棄物処理に関する情報は第13項を参照すること。
----------------------	---

項目 7: 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。適切な排気装置が設置されたエリアでのみ使用する。
----------	---

衛生対策	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。作業服は別に保管する。汚れた衣服を直ちに脱がせ、洗濯し再使用すること。作業の直後に手を洗い、必要に応じてシャワーを浴びること。作業エリアでは、喫煙、飲食
------	---



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

5/10

改訂日: 07.03.2018
印刷日: 07.03.2018

は禁止する。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管場所および容器の必要条件 保管場所には、許可された者のみが入り出する。納品時の容器でのみ保管する。乾燥した、涼しい、換気の良い場所で、容器の栓をしっかりと閉めて保管する。直射日光を避ける。しっかりと施錠する 盗難・紛失の際は警察に届け出る。

一般的な保管について 食物、飲み物、飼料から遠ざける

7.3 特定の最終用途 ラベルおよび/またはリーフレットを参照すること。

項目 8: ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

成分	CAS番号	管理濃度	更新日	基準
フィプロニル	120068-37-3	0,035 mg/m ³ (TWA)		OES BCS*

*OES BCS: Bayer AG クロップサイエンス部門内 "Occupational Exposure Standard"

8.2 曝露防止

保護具

通常の使用および取り扱い条件では、ラベルおよび/またはリーフレットを参照してください。それ以外の場合は、以下の推奨事項が適用されます

呼吸用保護具

通常、呼吸用保護具は必要ない。
呼吸用保護具は、封じ込め及び/又は局所排気装置など、発生源からのばく露の軽減対策を取ったうえで短時間の活動の残留リスクを管理するために使用すること。装着及びメンテナンスに関しては製造元の説明書に従うこと。

手の保護具

手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。
汚染された手袋は洗うこと。内側が汚染した場合、穴が開いた場合、又は外側の汚染物質が除去できない場合は処分すること。飲食、喫煙、トイレの前には手をしっかりと洗うこと。
材質 ニトリルゴム
透過度 > 480 min
手袋の厚さ > 0,4 mm
防護指数 クラス 6
指令 EN374に準じた防護手袋。

眼の保護具

ゴーグル (EN166;使用分野 5または同等品に適合するもの) を着用してください。

皮膚及び身体の保護具

標準的なつなぎの作業服とカテゴリー3タイプ4の化学防護服を着用すること。
重大なばく露のリスクがある場合は、より高機能の防護服を検討する



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

6/10

改訂日: 07.03.2018

印刷日: 07.03.2018

こと。
可能であれば、2層の衣類を着用してください。ポリエステル/綿または綿のオーバーオールは、化学保護服の下に着用しなければならず、頻繁に専門的に洗濯する必要があります。

項目 9: 物理的及び化学的性質

9.1 基礎物理および化学特性の情報

形状	懸濁液
色	ベージュ
臭い	弱い, 特異臭
pH	7,0 - 8,5 で 100 % (23 ° C)
引火点	関係なし、水溶液
密度	約 1,05 g/cm ³ で 20 ° C
水溶性	分散

9.2 その他の情報 その他の安全性に関するデータなし

項目 10: 物理的及び化学的性質

10.1 反応性

熱分解 通常の状態では安定。

10.2 化学的安定性 推奨保管条件下では安定。

10.3 危険有害反応可能性 規定の指示に従い保管・取扱いした場合、危険有害性反応は起こらない。

10.4 避けるべき条件 極端な温度と直射日光。

10.6 危険有害な分解生成物 通常の実用条件下では分解生成物はなし。

項目 11: 有害性情報

11.1 毒性情報

急性毒性（経口） LD50 (ラット) > 539 - < 1.183 mg/kg
試験は類似の製剤で実施。

急性毒性（吸入） LC50 (ラット) > 1,7 mg/l
曝露時間: 4 h
死亡毒性なし
最高到達濃度。
試験は類似の製剤で実施。



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

7/10
改訂日: 07.03.2018
印刷日: 07.03.2018

急性毒性（経皮）	LD50 (ラット) > 2.000 mg/kg 試験は類似の製剤で実施。
皮膚刺激性	わずかな刺激効果 - 表示は必要なし (ウサギ) 試験は類似の製剤で実施。
眼への刺激	わずかな刺激効果 - 表示は必要なし (ウサギ) 試験は類似の製剤で実施。
感作性	感作性なし。(モルモット) 試験は類似の製剤で実施。

特定標的臓器毒性－単回ばく露

フィプロニル: 入手可能なデータによれば、分類基準は満たされない。

特定標的臓器毒性－反復ばく露

フィプロニルは、以下の器官における動物実験において、特定の標的臓器の毒性を示した: 肝臓 フィプロニル 原因神経行動効果および/または神経病理学的変化の動物試験で使用されます。

変異原性

フィプロニルは、インビトロおよびインビボ試験の電池で変異原性または遺伝毒性ではなかった。

発がん性

フィプロニルは、ラットの試験において次の器官での腫瘍の発生率が増加した: 甲状腺 げっ歯類で腫瘍を誘発する機構および観察される腫瘍の種類は、ヒトには関係しない。

生殖毒性

は、ラットにおける2世代試験において、親世代に毒性のない濃度では生殖毒性の影響は認められなかった。フィプロニルにみられる生殖毒性は、親世代の毒性に関連している。

発生毒性

フィプロニルは、ラットおよびウサギにおいて発生毒性を引き起こさなかった。

吸引力呼吸器有害性

入手可能なデータによれば、区分外となる

項目 12: 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性	(Cyprinus carpio (コイ)) 7,8 mg/l 曝露時間: 96 h 試験は類似の製剤で実施。
水生無脊椎動物に対する毒性	EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)) 0,72 mg/l 曝露時間: 48 h 試験は類似の製剤で実施。
水生植物に対する毒性	EC50 (Desmodesmus subspicatus (緑藻)) 0,068 mg/l



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

8/10

改訂日: 07.03.2018

印刷日: 07.03.2018

曝露時間: 96 h
有効成分フィプロニルによる値

12.2 残留性・分解性

生分解性

フィプロニル:
急速分解性がない

Koc

フィプロニル: Koc: 427 - 1278

12.3 生体蓄積性

生体蓄積性

フィプロニル: 生物濃縮因子 (BCF) 321
生物濃縮されない。

12.4 土壤中の移動性

土壤中の移動性

フィプロニル: 土壤中でわずかに移動する

12.5 PBT および vPvB の評価結果

PBT および vPvB の評価

フィプロニル: この物質は、生物濃縮性で有毒な難分解性化学物質 (PBT) とはみなされない。この物質は、高生物濃縮性で高難分解性化学物質 (vPvB) であるとは考えられていない。

12.6 他の有害影響

生態系に関する追加情報

言及すべき他の効果はない。

項目 13: 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等産業廃棄物に関する法律、都道府県および市町村の関連条例に従って処理すること。

項目 14: 輸送上の注意

国内規則

鉄道および道路輸送

毒物及び劇物取締法の規制に従う。

指針番号

151

海上輸送

船舶安全法の規制に従う。

航空輸送

航空法の規制に従う。

包装、容器が破損しないように水濡れや乱暴な取扱いを避ける。

IMDG

14.1 国連番号

3082

14.2 国連輸送名

ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S.
(FIPRONIL SOLUTION)

14.3 輸送危険有害性クラス

9

14.4 容器等級

III

14.5 海洋汚染物質(該当・非該当)

該当



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

9/10

改訂日: 07.03.2018

印刷日: 07.03.2018

IATA

14.1 国連番号	3082
14.2 国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S. (FIPRONIL SOLUTION)
14.3 輸送危険有害性クラス	9
14.4 容器等級	III
14.5 環境危険有害性マーク	該当

項目 15: 適用法令

15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

詳細情報

WHO分類: クラスII (中程度に有害)

農薬取締法

登録番号 : 23970 (Bayer CropScience K.K.)

15.2 化学品安全性アセスメント (CSA)

化学品安全性アセスメントは必要なし

消防法

非該当

労働安全衛生法

非該当

毒物及び劇物取締法

劇物

化学名	政令番号
-----	------

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR)

第1種指定化学物質

化学名	番号	含有量 (%)
5-アミノ-1-[2,6-ジクロロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-3-シアノ-4-[(トリフルオロメチル)スルフィニル]ピラゾール	22	9,1

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR)

項目 16: その他の情報

1. 本資料の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、記載内容は



トップチョイスフロアブル

版番号 1/J
102000032111

10/10

改訂日: 07.03.2018

印刷日: 07.03.2018

新しい知見により改訂されることがあります。

2. 記載の注意事項は通常の取扱いを対象とした参考情報です。取扱いの際は用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。

3. 本資料は情報提供の目的のために作成されたものであり、その記載内容を保証するものではありません。

中毒の緊急問い合わせ先 : 公益財団法人 日本中毒情報センター

中毒110番 一般市民向け相談電話 医療機関専用有料電話
(情報提供料: 無料) (情報提供料: 一件2,000円)

大阪 (365日、24時間対応) 072-727-2499 072-726-9923

つくば (365日、9時~21時対応) 029-852-9999 029-851-9999

最も最近の版以降の変更は、余白に特記してあります。この版は、これまでの全ての版に代わるものです。